

※参考 個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドの会ですべてのジオサイトが説明できるように、それぞれ歴史や文化を交えたストーリーを作成・共有。 ・ガイドの会独自のガイドコース作成・研修・実施。
2	<p>(1) 看板設置 特に出入り口となる他町、他市との境界付近の道路にジオパークであることを示す看板を設置する。地元の者は通勤通学などの朝夕に見る、訪問者へ知らせる二つの効果が見込めるサイクリスト用の小さい看板を設置する。</p> <p>(2) 郷土学習、地元集落間交流研修会 ジオパークガイドブックを増刷し、児童生徒の郷土学習や各集落が他の集落のジオを学び美保関町全体の成り立ちや特色を学ぶ。</p>
3	(1)国指定天然記念物「竜溪洞」入口周辺の環境整備(古くなった看板等の取替等)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSや動画配信でのジオサイトのPR、プロモーション ・ガイド人員の強化 ・県外だけでなく地元の人に向けた勉強会やツアー ・神話観光とのコラボレーション

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
5	<p>令和4年度～7年度推進行動計画(マスタープラン、アクションプラン)素案につきましては、特に指摘させていただくところはありません。</p> <p>当館といたしましても、宍道湖や中海に生息する水生生物の展示施設、学習施設として、当地がジオパークであることを適宜、紹介していきたいと考えています。</p> <p>また、双方の施設でのパンフレット配架や、ホームページ、SNSなど、広報面でも引き続き、連携していきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
6	<p>① ジオ・キッズクラブ ●1年間を通して行う小学生(5・6年生)を対象としたクラブ活動。拠点はビジターセンターとするが、基本的に野外での活動となる。豊富な人材を抱える出雲国ジオガイドの会のメンバーをフル活用して子供に大地のこと環境のこと、世界のこと、そこで暮らす自分たちのことを考えるきっかけとなしてほしい。島根大学の学生や出雲科学館と連携してもいいかも。</p> <p>② オンラインジオツアー造成</p> <p>③ YouTube配信用のツアー動画作成</p> <p>④ 桂島での定時ガイド</p>
7	<p>今後取り組んで行きたい活動については、斐伊川と簸川平野・出雲平野を中心とした観光・学習プランを作成し、明確な目的を持ったガイドをしていきたいと考えています。また、勤務している斐伊川放水路事業記念館にて、ジオ的な案内を取り入れてみようと考えています。</p> <p>知識のさらなる習得を続け、正確な内容を伝えるよう努力していきます。以上です。よろしくお願いいたします。</p>
8	<p>私は、美保関片江でカヤックツアーを通じてジオサイトなど地域の魅力をゲストに伝えています。今後もスキルアップしながらより良いガイドを目指していこうと思っています。</p> <p>また、上述提案していますので、もしこの方向に向かうことがあれば、組織化に関わっていただけるとおもいます。</p>

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
9	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープラン、アクションプランについては特に意見はございません。 ・今後弊省のふれあいイベントや満喫プロジェクト業務などで、貴協議会と連携させていただければと思います。 引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
10	ガイドが出来ていない状況ですが、ジオサイトをタグ付けしたSNSの発信をこまめにしていければと思っています。
11	マスタープラン、アクションプランの素案について、ボリュームがとても多く、学術的表現に慣れずすべてをしっかりと読んでいく集中力がありませんでした。数回にわけて読んで、素案については特に異議はなく、こういう風に形作っていくものかと逆に勉強になりました。 ジオガイドの認定を受けたばかりですので、まだ今後のことは考えられず意見というのはありません。ただ、IT、写真・広報など比較的自身が強い分野での協力はできると思いますので、よろしくお願いいたします。
12	絵本の読み聞かせ活動を行っていて、このところ科学絵本やSDGSに関する本を選書するようになってきた。語りのネタも仕込むようにしている。仲間にも紹介していきたい。

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
13	ジオパークに指定されている地域の人たちは、自分たちの近くのジオサイトの事をどう考えているのでしょうか。地域の人たちが、近くのジオサイトをよく理解して、いろいろな活動が協力して行けるように、ミニジオガイドなどを開催してはどうでしょうか。
14	ジオガイドとしての活動は実績がないので、今までやった環境学習の中での話になりますが、地質に関係した活動で良かったと記憶しているのは2つです。1つ目は造成地に行き化石の貝類を採集し、知り合いの貝の専門家を招き名前を覚えてもらったもの。2つ目は宍道湖岸でいろいろな小石を広い集め、推進協議会のメンバーでもある島大の松本教授にその名前だけでなく、いつ頃どこから来たのかなど教えていただいたものです。子供たちはどちらも目を輝かせて取り組み、化石や石に興味を持たれたようでした。このような活動は親子や大人だけでも楽しめると思います。私のやっている活動だと、獲ったエビや釣ったハゼ、未利用魚のセイゴなどを島石で焼いて食べるくらいしか思い当たりませんが、コロナとの折り合いがつかずまでは、飲食は難しいでしょうね。
15	<ol style="list-style-type: none"> 1、宍道湖水系の水環境調査 2、ジオパークを活用した環境教育 3、科学の縁結び祭りでの大地の活動と大地の恵みの演示、解説を関係する地学系団体と共催で取り組む。 4、(ビジターセンター・ジオパーク祭りでの)親子実験・観察、工作活動 上記のような活動を活動可能な人たちと協力して行いたい。

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
16	<p>地質に関心がない人でも、足をはこんでもらえるように、ジオサイト周辺の地質以外の情報の発信。たとえば、ジオパークのパンフレットや本に載っているようなお食事処や、温泉、地震などの災害、博物館、神社等です。島根ワイナリーやじしみなど、食べ物がなぜその土地で有名なのかも地質と絡めると親しみやすくなるのではないかと思います。</p> <p>ホームページで拝見したのですが、小学生のためのワークシートや、ジオ学習サイト等も作ってみたいです。実際に、ジオガイドさんと子供たちと一緒に野外を歩いてみたいと思います。</p>
17	<p>立久恵峡のジオガイドが出来るようにしたい。</p> <p>ネイチャーゲームや自然観察指導員の資格も活かした活動を行っていききたい。</p> <p>イラストACで島根及びジオパーク周辺のイラストを沢山描いていききたい。もしリエストがあれば受け付けます。</p>
18	<p>神話＋ジオパークの観光プラン</p> <p>ジオで取れる材料を使ってのアクセサリ作りなどのクラフト体験。</p>

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
19	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲観光協会公式SNSを活用した発信 ・出雲神話を織り交ぜたガイド教本の作成、ガイド企画
20	<ul style="list-style-type: none"> ・奥出雲から日御碕・河下に至る斐伊川流域のスサノオ伝説を巡るツアーの第三回目、須佐神社から日御碕神社に至る伝説を案内する。河下は工事の様子を見る。 ・四十二浦巡り・ジオバスツアー-美保関町を募集開催する。コロナが許せば一般参加者も募集したい。 ・神話とジオの散歩道・島根半島編などの英語編を作成・配布し、外国人旅行客対策を準備したい。米子市に住む中国人旅行企画者が島根半島の旅に関心を持っていると聞いている。
21	<p>地元の皆さんにジオの大地で暮らしているという意識を持ってもらい、地元を守ろうという気持ちになってもらう活動。</p> <p>また島根半島の海側をメインに活動しているので海から行って実際に見たことを知ってもらう活動、具体的にはまず「島根半島 島神さんめぐり」を完遂すること。</p>

個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動

22

○コロナ渦ではありますが…、ジオサイトに興味のある方は多いと思なので、ジオ巡りのツアーを企画する。(現地集合現地解散)
1時間～3時間、半日コースなど時間別やエリア別に。
○島根半島宍道湖中海ジオパークエリアにある出雲国の神社にかかわる貴重で伝統的な神事の日程に合わせた募集型のガイド付きツアーを実施する。神事を見守り、出雲国土記記載の植物・神話などと絡め、魅力を知ってもらう。(例:①美保神社の諸手船神事・青柴垣神事などのクライマックス場面と、遠くに見えるダイナミックな火の神岳の景色と共に国引き神話と古事記を伝え、更なる興味を持ってもらう。
移動手段は各自の乗用車で現地集合。同様に②出雲大社の真菰神事 ③日御碕神社 神幸神事)
○五感で楽しめるジオサイト巡り “キレイ・ダイナミック・美味しい”を体を動かし体感してもらうツアー 移動手段は、E-バイク、ノルディックウォーキングなど。
○SNS インスタグラムの発信でこれまで以上に島根半島宍道湖中海ジオパークの魅力を知ってもらう。
Instagramのハッシュタグで紐づけた投稿で、島根半島宍道湖中海ジオパークの魅力をジオサイトを訪れたお客様に感動や、美しい風景を投稿し、発信してもらう。
イベントとして投稿期間を設け、投稿内容に、写真(人とジオサイトの景色を収めた写真と)とハッシュタグ(ジオサイトの場所 例:#日御碕『#いいね島根のジオ』等)を付け、投稿。後日抽選で、粗品を送付する。』というもの。
以上です。

個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動

23

1. 私は、これまで島根半島宍道湖中海ジオパークガイドの阿部國廣さんと一緒に身近な水環境の全国一斉調査に参加し、松江市宍道湖周辺の水質調査を行ってきました。これまでは、阿部さんと学生で行っていましたが、今後、ジオガイドの方々やジオパーク職員の方々を行うことで、学生と地域の方々の交流が増えることを期待する。
2. ジオパーク大会が昨年行われましたが、島根半島宍道湖中海ジオパーク内での発表会を行ってみたい。例えば、隠岐ジオパークでは、隠岐地域を研究する学生や研究者に発表してもらい、意見や議論を行う場であった。島根半島宍道湖中海ジオパークの研究助成金制度がありますが、発表の機会が少なく、このような場を作ることで、研究助成による研究成果の向上が期待される。さらに、しまね大交流会などで発表することで、企業の方々の目に留まり、更なるコラボに発展する可能性が高い。

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
24	<p>松江市ジオパーク推進室と連携を図り、当協会HP及びSNSを通じて、「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」に関する情報発信に取り組んでいきたい。</p>
25	<ul style="list-style-type: none"> ・認定ガイドの活動が見えてこない ・認定ガイドの組織を松江G、出雲Gに分け、他の団体と協力して活動すると良い ・他の団体なの例 観光専門ガイドG、自然環境・保全活動G、登山Gなど ・協議会からの補助金申請手続きを簡素化してほしい(ただし、事業報告は詳細にする)
26	<p>ジオパーク単体での誘客は現状厳しいことが想定されるため、国立公園との連動型として取り組むことを基本としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイドとの連携による各種商品造成など ※一般的な旅行会社との連携による事業は縮小とする(販売チャンネルが違いすぎるため) ・キャンプ場などとの連携による宿泊波及型スキームの構築

	個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動
27	<ul style="list-style-type: none"> ・古民家での民泊事業 ・鵜鷺(鷺浦)の海水とアラメを使った藻塩づくり、ジオブランド商品の製造と販売、海水やにがりを使った塩炊き体験や豆腐作り体験事業 ・鵜鷺地区の町並みや景勝地等への観光ガイド ・ジオパークの海での様々な体験活動(遊漁、クルージング、シーカヤック体験等) ・海を眺めながら行う有機炭素循環農法によるエコロジカルで安心・安全な野菜や果物の生産と販売 ・I/Uターン者の受入や定住の支援 ・鷺浦地区の空き家(古民家等)を改修して民泊事業を希望する事業者への支援活動。Iターン者の受け入れも行っていく。 ・海水を利用した死海/浮遊体験アクティビティ事業
28	<ul style="list-style-type: none"> ・日御碕コミュニティセンター作成の「日御碕カルタ」めぐり ・日御碕海の学校(シーカヤック、海散歩、海洋ごみ問題への学び、海をテーマにした者制作)
29	<p>○松江ビジターセンターに来てもらう工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジターセンターを拠点とする「学楽コース」(初心者コース) ・小学生コース、中学生コース、一般コース(小中コースは学校と連携) ・ジオパーク自然コース、ジオパーク神話コース <ol style="list-style-type: none"> 2. ビジターセンターを拠点とする「観光コース」 ・観光に重きをおいたジオパークコース(食のコース・土産のコース) 3. 潜戸遊覧船、大漁節、潜戸太鼓とタイアップした活動 4. 観光業者とのタイアップ 5. 風土記の丘等にあるような、スイッチを押せば火山活動が画像で分かるようなもの

個人・団体として今後取り組んでいきたいジオパーク活動	
30	◆定期的な砂浜のごみ拾いと宍道湖の水質調査など環境保全活動
31	稲佐の浜でできるアクティビティや清掃活動を引き続き行います。ポールウォーキングをしながらいろんなジオサイトをめぐる、というプランも計画 中。
32	松江市近郊の「ジオ」と史跡を探訪・散策し、ガイド活動に生かしていきたい。～八雲立つ風土記の丘を起点として～
33	長浜地区自治協会では、長浜海岸の一斉清掃活動やハマボウフウ定植活動など保全活動を計画的に継続する一方、海岸浸食対策の推進などについては、引き続き、県・市ご当局へお願いするものです。

※別紙1 6ページ 25 「意見」にある別紙

「松江市 千本ダム」
お雇い外国人 バルトン(William・K Burton 1856 -1899)に提案され、関屋忠正(1869 -1938)の調査によって、築かれた石積みのダムです。2003年、日本土木学会奨励遺産に指定。2008年には、登録有形文化財に登録されました。2019年、アンカー工事のため石材が調査されました。調査の結果、石材は「大東花崗閃緑岩」であると特定されました。現在「大東花崗閃緑岩」は岩体として残ってはいませんが、採石は約30年前に終了しており、現在では採石従事者もいない状況です。したがって、石材店が保有していた在庫を収集しましたが必要量には足りず、半分以上は見た目がよく似た岡山県倉敷市の花崗閃緑岩を使用する結果となりました。2019年に島根大学ジオパークプロジェクトセンター主催の探訪会でダムの 工事の様子と「大東花崗閃緑岩」の露頭を見学に行く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。また、この「大東花崗閃緑岩」は、月照寺の松平家 5代目以降の墓石にも使用されており、地元の石材産業の衰退は、今後の松江市や出雲市における文化財修復にも影響を与えるものと考えられます。

島根大学ジオパークプロジェクトセンター
令和元年度 第4回探訪会

ジオと近代化 - 千本ダムの場合 -



2020年 3月 7日(土)
9:30 ~ 16:00

●料 金 100円(税別) ●定 員 30名 ●申込締切 3月5日(木) ●集合場所 島根大学正門前

●当日の探訪コース(島根大学のバスと徒歩で廻ります)
大学→(1)三ツ原石(大東花崗閃緑岩) 国説見学→(2)高瀬浄水場研修室でお話し→
①千本ダムの歴史・PSアンカー工事の概要・浄水場見学→②千本ダム工事現場見学

お申し込み・詳細は裏面をご覧ください

島根大学ジオパークプロジェクトセンター
〒690-8504 島根県松江市川原田1060 島根大学 教養学部 自然環境教育推進 辻本 彰
TEL & FAX 0852-32-9876 E-mail tsujimoto@edu.shimane-u.ac.jp

<p>内 容</p> <p>「ジオ」は「地質」や「大東」という意味で、ジオパークでは、ツアーなどを通じて私たちが見守る地域や地球のことを楽しみながら学ぶことができます。松江市・出雲市をエリアとする「島根県内 内瀬川河川ジオパーク」は、島根県立自然史博物館と、その上流に広がる「大東花崗閃緑岩」のつながりを感じることができます。</p> <p>島根大学ジオパークプロジェクトセンターでは、定期的に現地探訪会を実施し、地質の解説とこの地の魅力を再発見する機会を創っています。令和元年度 第4回探訪会(現地探訪会)では、日本の近代化産業と地質のかかわりを知り、地質調査工事の様子や土木史を、資料館と文化財である「千本ダム」を見学します。</p> <p>日本の近代化において、地質学が大きな役割を果たしました。農業・畜産・林業・トンネル工事など、地質調査と近代化は密接に関係しています。千本ダムは山陰初の近代水源地として大正8年に完成しました。調査には内務省のお雇い外国人 W.K. バルトンが関わっています。外観は赤瓦葺きで建造する「隠れ御所」(大東花崗閃緑岩)が特徴です。地質の土壌分析が実施されています。昨年9月より地質調査工事が行われました。</p> <p>地質の専門家でも使われている地質の歴史の一つ「大東花崗閃緑岩」(地質学名「五石閃緑岩」)の特質や産出方法、松江市の水源地のひとつである千本ダム、地質調査場の歴史、また国内初の PS アンカー工法の工事概要をそれぞれの現場と観察などでお話しします。地質の探訪が現在の新しい環境によって復元が引き継がれていく、そしてそこにジオパーク探訪会に関わっていることを学ぶ探訪会です。</p> <p>参加費：100円(税別) 案内人：入川尚樹、辻本 彰(島根大学ジオパークプロジェクトセンター教員) 講師：藤原雅弘(地質学) 藤井健樹(地質学) 中継機：立川謙夫(松江市上下水道局) 国説見学：(モニメント)、ミュージアム、環境センター 学芸員 ※駐車 お車は探訪会を兼ねたい場合は、併せて申し込みください。</p>
<p>お申込み方法</p> <p>参加希望の方は、参加者の氏名(ふりがな)・住所・連絡先(電話番号・FAX番号・E-mailアドレス)を明記の上、下の宛先に郵送・FAX・E-mailのいずれかで申し込みください。以下の参加申込書もご利用いただけます。</p> <p>定 員：30名(先着順、どなたでも参加できます。) / 申込締切：3月5日(木) 必着</p>
<p>お問い合わせ・お申込み先</p> <p>〒690-8504 島根県松江市川原田1060 島根大学 教養学部 自然環境教育推進 辻本 彰 TEL & FAX 0852-32-9876 E-mail tsujimoto@edu.shimane-u.ac.jp</p>
<p>参加申込書</p> <p>ふりがな 氏 名 住 所 TEL FAX E-mail</p>